

読売新聞 きょう（9月28日）のイチ押し

1面、社会面など 関西電力幹部ら20人に3.2億円

関西電力の岩根茂樹社長や八木誠会長らに同社の20人が2011～2018年、原子力発電所が立地する福井県高浜町の元助役から計3億2000万円相当の金品を受け取っていたことがわかりました。

- ★ 元助役には関電発注の原発工事に関わった建設会社から約3億円の資金が流れており、その金が元となり金品が提供されていました。
- ★ 岩根社長は「町の有力者で、なかなか返せなかった」と釈明。発注への影響や元助役への便宜供与は否定しました。

解説面など 急性期病床、削減図る 「再編必要」病院公表

厚生労働省は、再編・統合の検討が必要な424の公立・公的病院の実名公表に踏み切りました。名指しされた病院や患者からは、戸惑いや不安の声が上がっています。

- ★ 増加する医療費を抑えるため、入院費の高い「高度急性期・急性期」の病床数を大幅に減らす必要がありますが、対策は進んでいません。
- ★ 対象病院には、全国から患者が受診する専門病院も含まれます。対象病院のリストを「くらし教育面」に掲載しています。

関西経済面 グローバル化誇りを持って 読売広論セミナー

関西の経済界が目指すべき将来像を有識者と共に考える2019年度の3回目の読売広論セミナーが24日、大阪市内のホテルで開かれました。新日本プロレスのハロルド・メイ社長兼CEOが「真のグローバル経営に必要な10の教訓」をテーマに講演しました。詳しい内容を紹介しています。

他紙と比べて

男子大学生の陸上長距離は10月14日の出雲全日本大学選抜駅伝から、駅伝シーズンを迎えます。11月の全日本大学駅伝を経て、来年1月の第96回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）まで熱戦を繰り広げます。特別面で注目選手を紹介しています。